

報道関係各位

2025 年 5 月 29 日

SUPER FORMULA NEXT50 2025 年 第 1 回カーボンニュートラル開発テスト実施報告

全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下「SUPER FORMULA」)を開催する株式会社日本レースプロモーション(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：上野 禎久、以下「JRP」)は 5 月 27 日(火)・28 日(水)の 2 日間、今シーズンの第 1 回目となるカーボンニュートラル開発テスト(以下 CN 開発テスト)を、スポーツランド SUGO(宮城県柴田郡村田町)で行いました。



<開発テスト車両 通称「赤寅」(国本雄資選手)> <開発テスト車両 通称「白寅」(山本尚貴選手)>

JRP では 2022 年から「SUPER FORMULA NEXT50」プロジェクトを通じ、「カーボンニュートラルへの対応」と「エンターテインメント性の向上」の 2 つをテーマに、メーカーの垣根を越えて CN 開発テストを繰り返し実施しています。

2023 年に導入した現行マシン『SF23』は、カーボンニュートラルの対応として、原材料ならびに製造過程での CO2 排出量を約 75%抑制した「Bcomp 社」のバイオコンポジット素材や、今季より天然由来の配合剤やリサイクル素材等、再生可能原料の比率を 45%まで向上させた横浜ゴムの「カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ」を採用しておりますが、2025 年第 1 回目の開発テストでは、今季レギュラーで使用しているレーシングタイヤのさらなる性能向上を目指したテストが行われました。また、各種 ECU(Electronic Control Unit)、センサー系、ステアリングの操作性確認などのテストもあわせて行いました。

開発テストには White Tiger SF23 (通称「白寅」)と Red Tiger SF23 (「赤寅」)が参加。既報の通り「赤寅」は 2016 年のシリーズチャンピオン国本雄資選手、「白寅」は 2013 年、18 年、20 年と 3 度

のシリーズチャンピオンを獲得した山本尚貴選手と、チャンピオン経験者二人が CN 開発ドライバーを担当しました。



<カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ>

テスト初日の午前 11 時から行われた 1 時間の走行セッションでは、今季仕様のレギュラータイヤを装着し、3.586km の SUGO トラックを赤寅の国本選手が 20 周、白寅の山本選手が 19 周を周回。午後 14 時からの 2 時間のセッションでは、今回新たに 3 種類持ち込まれたケーシング(タイヤ内部の構造部分)での走行テストが行われ、赤寅の国本選手、白寅の山本選手共に 54 周回を走行し、多くのデータ収集、パフォーマンスの確認を行いました。

テスト 2 日目はウェット路面での走行テストを行うため、早朝よりサーキット全周にわたって散水車により水が撒かれ、午前 3 時間、午後 2 時間、計 5 時間のウェットタイヤテストを行いました。2 日目は国本選手が 107 周、山本選手が 109 周と周回を重ね、ウェットタイヤのコンパウンド、ケーシングそれぞれの評価を行いました。

JRP では CN 開発テストを通して得られた知見を活かし、今後もカーボンニュートラルとエンターテインメントの向上に向けた活動を継続してまいります。

今回の第 2 回カーボンニュートラル開発テストは 9 月初旬に富士スピードウェイで実施予定です。また来月 6 月 6 日(金)・7 日(土)の 2 日間は、富士スピードウェイにて参戦全チームが参加する公式テストを実施いたします。

2025 年 第 1 回カーボンニュートラル開発テストメディアフォト

<https://old.superformula.net/app/user/media.php>

パスワード：sf2025



<開発テストセッション後の報告会の様子>

開発ドライバー 国本雄資選手のコメント



「事前に今シーズン参戦しているレギュラードライバーに様々な要望をヒヤリングして臨みましてので、そのポイントにフォーカスしてテストを行いました。ドライタイヤもウェットタイヤもテストすることができ、どうすればもっと楽しいレースができるのかを考えながら、完璧ではないですが方向性は見えてきたのかなと思います。一つのタイヤスペックで戦う SUPER FORMULA では、高負荷のコースもあれば低負荷のサーキットもある中、何を重視するのかを見極めるのは難しい作業なのですが、特にレインタイヤについては多少雨量が増えても安全に走れるといったことにフォーカスしていますので、このままテストを重ねれば良い方向に行くのかなと考えています」

開発ドライバー 山本尚貴選手のコメント



「今季は計3回の開発テストが予定されている中、基礎的な検討課題を見出すためのテストになりましたね。今季のレギュラータイヤの課題点と改善点をしっかり把握したうえで、その対比として開発タイヤのテストができ、今後に向けての検討材料は集まったと感じています。その材料を横浜ゴムさんに解析していただきながら、全参戦ドライバーが安心して自分のパフォーマンスが最大限引き出せるように、一緒に開発できればと考えています。」

「昨年の最終戦以来の SUPER FORMULA での走行でしたが、現行車両、現行タイヤで走ることでより選手が目線、より選手の感覚と近い状態で会話ができますし、せっかくこういった機会を頂いたので、選手権全体、選手一人ひとりにフィードバックできるよう取り組んでいきたいと思っています」

本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-5 axle 御茶ノ水 3F-304

(株)日本レースプロモーション 広報事務局：上坂・上田

Email: media@superformula.net